

新 しあわせ信州「ノウフク」プロジェクト事業

健康福祉部・農政部

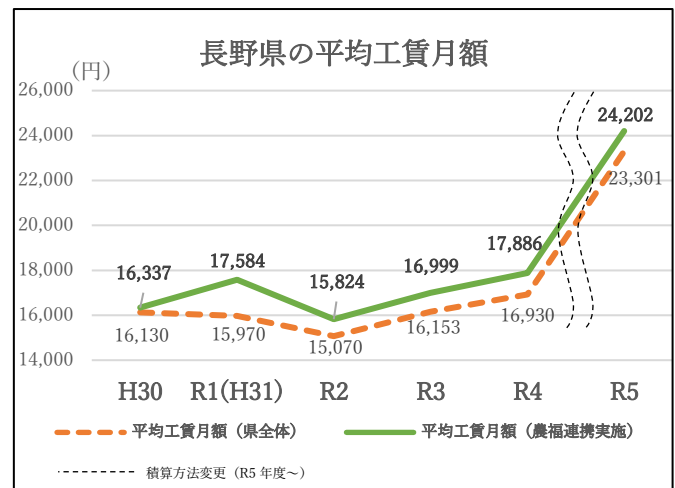
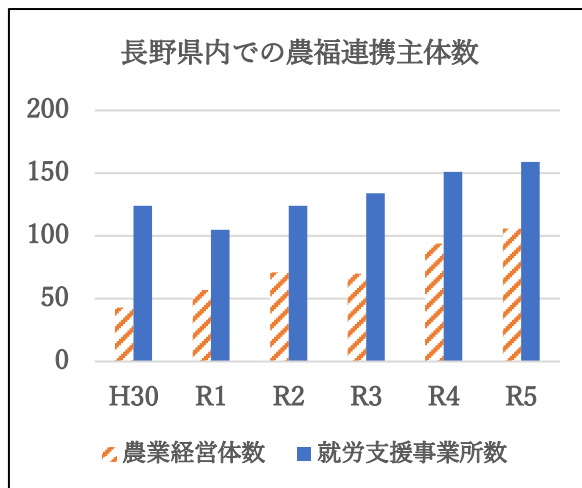
1 目的

深刻な労働力不足にある農業分野の新たな働き手の確保と農業を通じた障がい者の働く場の確保等、農福連携の重要性が高いが、その認知度は依然として低い状況にあることから、広く県民（消費者）・農家・農産物を取り扱う事業者等に向けた広報・啓発活動等により、農福連携の社会的意義の理解を深めてもらう取組が必要である。

そこで、本事業では、農福連携全国都道府県ネットワーク会長県としてマルシェやシンポジウム等を実施して情報発信・共有に取り組み、全国で農福連携の機運を高め、農福連携の更なる普及拡大と地域間のネットワーク強化を図る。

2 現状と課題

(1) 現状



○農福連携等に取り組む主体数は年々増加。農福連携により、農業に従事する障がい者数も増加していると考えられる。

・農福連携に取り組む就労継続支援 B 型事業所（全事業所に占める割合）

R1：105（38.9%）→R5：159（49.5%）

・受入農業経営体数

R1：57 → R5：106

○農福連携を行っている事業所の平均工賃は、全事業所の平均工賃より高い傾向にある。

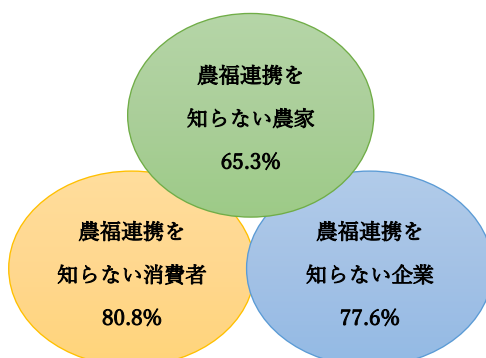
○事業所の利用者（障がい者）にとって、身体・精神の両面で好影響があり、事業所はその効果を感じている。

・体力がつき、体調を崩しにくくなった

・よく眠れるようになった

・物事に取り組む意欲が高まった など

(2) 課題



○農福連携の仕組みやメリットを理解していない農業者が多く、障がい者の活躍の場が限られている。

○農福連携の農産物の消費拡大を図るためには、消費者にその社会的意義を理解してもらう必要がある。

○農産物を取り扱う小売業者や食材として利用する飲食業者、新たに農業分野に参入する企業等に、農福連携のメリットや社会的意義を理解してもらうことによって、農福連携を推進する必要がある。

* R5 農福連携に関するアンケート調査（一般社団法人日本基金）

3 事業内容

ノウフクの意義を理解し実体験できるイベントを市町村や民間と連携し実施、機運を活気づけ広げる

消費者を含めた幅広い層に認知してもらうための仕掛けづくり

会長県として全国的な取組を実施してリードし、全国的な機運醸成に

	R7長野県取組(案)	長野県取組の特徴
①広報	【長野県・全国】 ・WEB、SNS、新聞広告、TV広告、映画館広告、デジタルサイネージ等	・全世代に情報を分かりやすく発信
②マルシェ	【全国】 ・各都道府県にノウフクの日(11/29)を中心にマルシェの開催を働きかけ 【長野県】 ・県内で県主催(複数か所)及び市町村・民間との連携のマルシェを開催	・会長県だけでなく、ネットワーク構成自治体に参加する全国的な取組 ・市町村や民間を巻き込んだ全県的な取組
③シンポジウム	【全国】 ・全国から参加者を募集 ・集合とオンラインの併用、アーカイブ配信 ・県内農業関係者、事業者、県民に参加を呼びかけ	・会場に参加できる人だけでなく、全国の多くの人に優良事例を広める。
④デジタルスタンプキャンペーン	【全国】 ・全都道府県に参加を呼びかけ(対象店、景品提供等) 【長野県】 ・マルシェやアンテナショップ(銀座NAGANO等)でのノウフク商品購入時に付与	・これまでは、各都道府県が全国ネットワークの取組に主体的に関与する機会が少なかったが、その機会を拡大 ・消費者に関心を持ってもらうための仕掛け
⑤現地研修会	【全国】 ・各都道府県の優良事例等を学ぶ機会、情報共有の機会の提供 【長野県】 ・長野県の優良事例を全国にアピール	・長野県が全国の農福連携をリード

4 予算額 15,994千円(一般財源 15,994千円)